

アメリカの女性たちが

女性たちと社会

3

ち」がその場の空気を支配する。

高校卒業後は親元をへなれる。そんな米国の常識はもはや過去の遺物だ。二〇〇〇年に大学を卒業したサンチェスさんによると約五百人の同級生のうち「半数は実家に帰ったのでは」。「ブーメラン・キッズ」とい

「半人前」の社会人

この集まりは「親への新語も登場した。現在、両親、妹弟と五人暮らし。団体職員で年収は三万二千ドル。専攻を急騰した家賃、社会保障制度の危機、高い離婚率

生活苦しく親元に戻る



親との同居の悩みを語り合うサンチェスさんたち (シカゴ)

「理系の一部を除けば、初任給で都会でひとり暮らすことは不可能だ」。不安定な労働市場、

「理系の一部を除けば、初任給で都会でひとり暮らすことは不可能だ」。不安定な労働市場、

コンサル昇。二〇〇〇年の米國勢調査では二十五―三十四歳の同居率は男性の二二・九%に対し女性は八・三%にのぼった。経済的自立への焦りから、同居を対象に実家に戻る割合を調査。全体の六五%、平均同居期間は十四カ月。だが、親の側には子供を迎える準備はできていない。「子供が家に帰りたくないと言いついては、老後の暮らしに影響を及ぼすか」。全米の財務相談所でこんな質問が増えている。「同居は人増え設計を狂わせ、子供の依存心も高めます」。ア

「理系の一部を除けば、初任給で都会でひとり暮らすことは不可能だ」。不安定な労働市場、